

令和7年3月25日

世田谷区立八幡中学校  
校長 山田 勝基 様

世田谷区立八幡中学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 田中 彰夫

令和6年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について  
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

## 1 調査結果の概要

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月に5類感染症に移行され、令和6年度は、ほぼ従前の生活に戻り、活動を行うことができた1年間であった。

本年度も、保護者、地域、生徒へのアンケートを実施した。一昨年度は回収方法の変更に伴い保護者からの回収率が大きく落ち込んだが、昨年度から持ち直し、本年度の回収率は、保護者\*\*%、生徒\*\*%であった。地域については昨年度から人数での表記に変更し、昨年度とほぼ同数の\*\*名からの回答を得た。

今般も、各設問回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」と『否定的評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」及びE『分からない』)に分けてその割合を比較してみた。コロナ禍においては厳しい評価の項目も見られたが、本年度は『肯定的評価』が多く、経年変化についても、もともと肯定的評価の高い項目においてもさらに評価ポイントが伸びた項目や、厳しい状況ながらも改善が見られる項目などがあり、学校側の継続的な努力が結果としてあらわれている様子が見受けられる。

昨年度の学校関係者評価の結果を受け、本年度の改善・努力を行った項目について考察し、本年度どのように評価されているのか、結果とともに分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『わからない(E)』の比率の高かった項目については、内容をよく吟味し、さらに改善・努力することが引き続き望まれる。

## 2 調査結果の詳細

### (1)保護者の評価

#### ①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

##### i) 全45項目（共通項目）中

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	1項目
5割以上のもの	1項目
6割以上のもの	7項目
7割以上のもの	14項目
8割以上のもの	14項目
9割以上のもの	8項目

※参考	昨年度（R5年評価）44項目
5割未満のもの	1項目
5割以上のもの	6項目
6割以上のもの	6項目
7割以上のもの	11項目
8割以上のもの	16項目
9割以上のもの	4項目

##### ii) 9割以上の項目（上位4項目）

3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある。」96%

3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい」94%

8-(4)「本校は、学校公開や保護会などで、生徒の様子がわかる」93%

6-(5)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」93%

#### ②昨年度対比（比較できる質問項目数「44項目」）

##### i) 『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>30項目 <減少（悪化）した項目数>11項目 <変化なし>3項目

<ベスト2>

6-(5)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」20ポイント

4-(2)「本校は、子どもの進路や将来の仕事について。考える授業がある」18ポイント

<ワースト2>

6-(4)「本校は近隣の（幼稚園）小・中学校で（中略）来たりする機会がある」-7ポイント

5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」-4ポイント

##### ii) 『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>25項目 <増加（悪化）した項目数>15項目 <変化なし>4項目

<ベスト2>

6-(5)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」-12ポイント

8-(3)「「学び舎」の区立（幼稚園）小学校について情報が提供されている」-12ポイント

<ワースト2>

12-(3)「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」5ポイント

13-(4)「通知表で評価されたことは、納得できる」4ポイント

## (2) 地域の方の評価

### ①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

#### i) 全15項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	0項目
5割以上のもの	2項目
6割以上のもの	0項目
7割以上のもの	7項目
8割以上のもの	2項目
9割以上のもの	4項目

※参考 昨年度（R4年評価）15項目	
5割未満のもの	1項目
5割以上のもの	0項目
6割以上のもの	0項目
7割以上のもの	4項目
8割以上のもの	2項目
9割以上のもの	8項目

#### ii) 100%の項目

7-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている」

### ②昨年度対比（比較できる質問項目数「15項目」）

#### i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>4項目 <減少（悪化）した項目数>8項目 <変更なし>3項目  
<ベスト2>

5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」13ポイント

6-(2)「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」6ポイント

<ワースト2>

1-(1)「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」-22ポイント

5-(3)「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」-18ポイント

#### ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>4項目、<増加（悪化）した項目数>7項目、<変化なし>4項目  
<ベスト2>

5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」-16ポイント

7-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている」-4ポイント

<ワースト2>

3-(2)「「学び舎」の活動について、情報が提供されている」6ポイント

1-(1)「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」4ポイント

### (3) 生徒の評価

#### ①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

##### i) 全35項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割未満のもの	2 項目
5割以上のもの	0 項目
6割以上のもの	2 項目
7割以上のもの	8 項目
8割以上のもの	9 項目
9割以上のもの	14 項目

※参考 昨年度（R4年評価）34項目

5割未満のもの	1 項目
5割以上のもの	2 項目
6割以上のもの	3 項目
7割以上のもの	5 項目
8割以上のもの	14 項目
9割以上のもの	9 項目

##### ii) 9割以上の項目（上位5項目）

- 5-(1)「先生たちは、生徒にいていないに指導している」97%
- 3-(1)「学校行事は楽しい」96%
- 6-(1)「学校生活は楽しい」96%
- 1-(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」95%
- 3-(3)「先生は、生徒の意欲を大切にしている」95%

#### ②昨年度対比（比較できる質問項目数「34項目」）

##### i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>26項目、<減少（悪化）した項目数>5項目、<変化なし>3項目  
<ベスト2>

13-(9)「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」17ポイント

13-(10)「貸出されているタブレットを自分の学習のために役立てている」12ポイント

<ワースト2>

6-(5)「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」-8ポイント

13-(1)「授業において先生は私の学習状況に合わせた学習課題を設定してくれるような工夫をしている」-5ポイント

##### ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>24項目 <増加（悪化）した項目数>5項目 <変化なし>5項目  
<ベスト2>

13-(9)「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」-17ポイント

13-(10)「貸出されているタブレットを自分の学習のために役立てている」-12ポイント

<ワースト2>

13-(6)「自分の意見が活かされていると感じている」5ポイント

13-(1)「授業において先生は私の学習状況に合わせた学習課題を設定してくれるような工夫をしている」3ポイント

### 3 分析に関するコメント

#### (1) 学習指導について

##### ①保護者の評価

- 当該4項目全てで肯定的評価が60%以上で、「わからない」の割合が、15%~31%である。本校の学習指導については、過去3年の比較では、1-(3)の項目を除く4項目中3項目で一昨年度から昨年度で減少し今年度増加している。また、「わからない」の割合が全項目で減少しており、今年度の取り組みについて、多くの保護者が学習指導に関心を持ち、肯定的に評価していると考える。
- 1-(1)「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている」の『肯定的評価』は、昨年度73%から今年度76%に増加、『否定的評価』と『わからない』は微減となった。
- 1-(2)「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の『肯定的評価』は、昨年度は50%と一昨年度から6ポイント減少したが、今年度は10ポイント増加し、60%となった。なお、『わからない』が前年度を8ポイント減少して31%である。
- 1-(3)「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は、2年連続で81%と横ばいであった。
- 1-(4)「映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の『肯定的評価』は、昨年度は58%と一昨年度から5ポイント減少したが、今年度は10ポイント増加し、68%となった。なお、『否定的評価』は16%から7%まで2年連続で減少している。

##### ②生徒の評価

- 当該5項目全ての項目について、生徒全体の肯定的評価は85%以上である。
- 1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり友人と考えたりする時間を授業の中でとっている」の生徒全体の『肯定的評価』は、昨年度・今年度ともに94%である。
- 1-(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の『肯定的評価』について、生徒全体では、昨年度・今年度ともに95%である。学年別の内訳は、1年生(96%)2年生(90%)3年生(98%)と、2年生が厳しめの評価であった。また現2年生は昨年度(1年次)97%であったことから、7ポイントの減少である。なお現3年生は1年次(89%)2年次(94%)3年次(98%)と経年増加している。
- 1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の『肯定的評価』について、昨年度92%から今年度94%と増加している。学年別内訳は、1年生(96%)2年生(95%)3年生(91%)と、学年が上がるにつれて減少傾向にある。ただし、現2年生は昨年度と今年度共に95%で、現3年生は1年次(92%)2年次(88%)3年次(91%)であったことから、学年別の傾向(受け止める生徒側の差異)とは言い切れない面もある。
- 1-(4)「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の生徒全体の『肯定的評価』について、昨年度89%から今年度92%に増加している。学年別の内訳は、1年生(92%)2年生(89%)3年生(96%)と、2年生が厳しめの評価であった。また2年生は昨年度(1年次)98%であったことから、9ポイントの減少である(『否定的評価』は0%から10%へ増加している)。現3年生は1年次(87%)2年次(84%)3年次(96%)と、2年次にいった

ん減少して3年次に再び増加していることがわかる。なお現3年生の『否定的評価』は昨年度14%から今年度2%と10ポイント以上減少している。2年生は肯定的に評価する割合が減少し、3年生は増加しやすいという学年別の特徴(受け止める生徒側の差異)とも考えられるが、各学年を指導する先生方による差異という可能性もあり、明確には言い切れない面がある。

- 1-(5)「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の『肯定的評価』について、生徒全体では、昨年度86%で今年度87%である。学年別の内訳は、1年生(88%)2年生(81%)3年生(93%)である。また、現2年生は昨年度(1年次)84%であったことから、3ポイントの減少、現3年生は1年次(81%)2年次(86%)3年次(93%)と、学校生活時間と共に増加していることがわかる。

### ③保護者と生徒の評価の比較

- 学習指導についての共通項目では、保護者と生徒ともに、昨年度と比べ『肯定的評価』が全ての項目で同じか増加している(保護者の場合は一昨年度から昨年度にかけて減少、昨年度から今年度にかけて増加傾向がみられる)。

## (2) 生活指導について

### ①保護者の評価

- 当該2項目とも『肯定的評価』は80%以上で高い。
- 2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて子供に考え支える指導をしている」の『肯定的評価』は、昨年度83%から今年度81%に減少し、『否定的評価』は昨年度5%から今年度7%と増加している。
- 2-(2)「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子供が理解している。」の『肯定的評価』は、昨年度85%が今年度87%に、否定的評価は昨年度5%が今年度3%である。

### ②地域の評価

- 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」の『肯定的評価』は昨年度100%であったが、本年度は78%と減少している(『否定的評価』が4%、『わからない』が19%であることから、本校生徒を目にする機会が少なかった可能性がある)。

### ③生徒の評価

- 当該3項目全てで、生徒全体の『肯定的評価』は今年度90%以上である。
- 2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の生徒全体の『肯定的評価』は、昨年度91%から今年度92%とほぼ横ばいである。学年別の内訳は、1年生(90%)2年生(92%)3年生(95%)である。
- 2-(2)「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」の生徒全体の『肯定的評価』は、昨年度93%から今年度90%と減少している。学年別の内訳は、1年生(86%)2年生(90%)3年生(93%)である。

- 2-(3)「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」の生徒全体の『肯定的評価』は、昨年度 89%から今年度 94%と増加している。学年別の内訳は、1年生(96%)2年生(89%)3年生(98%)である。また、現2年生は昨年度(1年次)88%であったことからほぼ横ばい、現3年生は1年次(88%)2年次(96%)3年次(98%)と、学校生活時間と共に増加していることがわかる。

#### ④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 「生活指導について、『肯定的評価』は全体的に高いが、地域を対象とした交通ルールについての設問項目で減少し、保護者と生徒を対象とした学校での生活指導についての設問では、学年を追うごとに肯定的評価が増加している。

### (3) 学校行事について

#### ①保護者の評価

- 当該3項目全てで『肯定的評価』が90%以上であり、昨年度と比べてすべての項目で『肯定的評価』が増加している。
- 3-(1)「学校行事は、子どもにとって楽しい」の『肯定的評価』は、一昨年度(89%)昨年度(92%)今年度(94%)と2年連続で増加している。
- 3-(2)「学校行事は、子どもにとって達成感がある」の『肯定的評価』は、一昨年度(86%)昨年度(90%)今年度(96%)と2年連続で増加している。
- 3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている。」の『肯定的評価』は、昨年度 85%から今年度 92%に増加している。

#### ②地域の評価

- 当該2項目とも『肯定的評価』は、80%以上である。
- 2-(1)「学校行事の内容は充実している」の『肯定的評価』は、昨年度 100%から今年度 96%に減少したが、『否定的評価』は昨年度同様に 0%である。
- 2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」の『肯定的評価』は、昨年度 91%から今年度 81%と 10ポイント減少した。『否定的評価』は昨年度 0%が今年度 4%であり、「わからない」が昨年度 9%から今年度 15%に増加している。

#### ③生徒の評価

- 当該3項目全てで『肯定的評価』は90%以上で、いずれの項目も2年連続で『肯定的評価』が増加している。
- 3-(1)「学校行事は楽しい」の『肯定的評価』は、一昨年度(88%)昨年度(95%)今年度(96%)と2年連続で増加している。今年度の学年別の内訳は、1年生(98%)2年生(94%)3年生(98%)である。なお、3学年のうちで最も比率の低い現2年生でさえも1年生次から高い水準(95%)であった。現3年生は1年次(90%)2年次(94%)3年次(98%)と、学年を追うごとに増加し

ていることがわかる。

- 3-(2)「学校行事は楽しい。達成感がある。」の『肯定的評価』は、一昨年度(87%)昨年度(88%)今年度(94%)と2年連続増加であった。今年度の学年別の内訳は、1年生(88%)2年生(95%)3年生(98%)である。なお、現2年生は昨年度(1年次)86%から9ポイントの増加、現3年生は1年次(88%)2年次(88%)3年次(98%)と今年度は10ポイント程度増加していることがわかる。
- 3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている」の『肯定的評価』は、一昨年度(86%)昨年度(92%)今年度(95%)と2年連続増加であった。今年度の学年別の内訳は、1年生(92%)2年生(94%)3年生(98%)である。また、現2年生は昨年度(1年次)92%から、2ポイントの増加である。現3年生は1年次(91%)2年次(92%)3年次(98%)と、学年を追うごとに増加し、『否定的評価』は3年連続で0%である。

#### ④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 学校行事について、生徒も保護者も地域も肯定的な評価が高いが、地域の肯定的評価は減少し「わからない」が増加している。

## (4) キャリア教育について

### ①保護者の評価

- 4-(1)「本校はキャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」の『肯定的評価』は、昨年度55%から今年度61%に増加しているが、『わからない』は昨年同様31%と、依然として多い。
- 4-(2)「本校は子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある」の『肯定的評価』は、昨年度61%から今年度78%に増加、『否定的評価』『わからない』は昨年度に比べ10ポイントずつ減少している。
- 4-(3)「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の『肯定的評価』は昨年度51%から今年度66%に増加し、『否定的評価』は昨年度21%から今年度10%に減少している。

### ②生徒の評価

- 4-(1)「学ぶことが楽しい」は今年度新設の項目であり、全学年平均86%の『肯定的評価』であった。
- 4-(2)「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考え行動している」の『肯定的評価』は昨年度59%から今年度67%に増加した。学年別の内訳は、2・3年生の『肯定的評価』は昨年度とほぼ変わらず63%・61%であったが、八中版キャリア・パスポートが導入された1年生の『肯定的評価』は80%と高い水準を示している。
- 4-(3)「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」の『肯定的評価』は、昨年度は84%と一昨年度を5ポイント増加したが、今年度は79%と、一昨年度の水準に戻った。学年別の内訳は、1年生62%、2年生81%、3年生91%と、学年が上がるにつれ評価が高くなっている。



- 4-(4)「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の『肯定的評価』については77%と前年度を6ポイント上回った。学年別の内訳は、1年生68%、2年生79%、3年生82%と、例年の傾向と同様に学年が上がるにつれ評価が高くなっている。

### ③保護者と生徒の評価の比較

- 全項目とも生徒に比べ保護者の『わからない』が多いが、進路や将来についての授業や情報については保護者の評価が上がっている。

## (5) 教職員（先生）について

### ①保護者の評価

- 5-(1)「本校は、ていねいに指導している。」の『肯定的評価』は90%であった。
- 5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」の『肯定的評価』も85%と昨年同様高い評価であった。

### ②生徒の評価

- 5-(1)「先生たちは、生徒にていねいに指導している。」の『肯定的評価』は97%と大変高い。特に3年生の『否定的評価』はゼロであった。
- 5-(2)「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の『肯定的評価』は85%あり、各学年とも評価を上げ、平均で昨年より10ポイント増となった。

### ③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者と生徒との乖離はなく、かなり高い評価である。

## (6) 全般について

### ①保護者の評価

- 6-(1)「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は89%と、直近の3年間ほぼ変わらず安定した高い評価となっている。
- 6-(2)「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』は82%あり、この3年間で少しずつ評価を上げている。
- 6-(3)「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。」の『肯定的評価』は75%で昨年より16ポイント上げたが、『否定的評価』も未だ20%ある。
- 6-(4)「本校は、近隣の（幼稚園）小・中学校で構成する「学び舎」の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある。」の『肯定的評価』は80%と昨年より7ポイント減少、『わからない』が15%に増えた。
- 6-(5)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」は2年連続で『肯定的評価』が上昇している。昨年度は11ポイント増加、今年度は20ポイント増加で、93%の高水準となった。

- 6-(6)「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の『肯定的評価』は76%で、例年と同様の水準であった。

#### ②生徒の評価

- 6-(1)「学校生活は、楽しい。」の『肯定的評価』は96%と年々上増加している。
- 6-(2)「学校生活は、達成感がある。」の『肯定的評価』は年々増加の88%、一昨年度より10ポイント増となった。
- 6-(3)「私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている。」の『肯定的評価』も一昨年度より10ポイント増加の72%となった。
- 6-(4)「私は、塾で学習している。」の『肯定的評価』は、昨年度と同じく69%であった。学年別の内訳は、1年生48%、2年生68%、3年生89%と学年が上がるにつれ通塾率が高くなっている。
- 6-(5)「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」については、『肯定的評価』が昨年より8ポイント減少の49%となった。
- 6-(6)「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の『肯定的評価』は76%ので例年とほぼ変わらない。

#### ③保護者と生徒の評価の比較

- 学校生活においては保護者・生徒共にとても満足していることが伺える。「学び舎の小学校への往来」について、保護者は安定して高評価であるが、生徒は年よってのバラつきが大きく、今年度の『肯定的評価』は親子で30ポイント程の乖離があった。

### (7) 部活動について

#### ①保護者の評価

- 7-(1)「部活動は、子どもにとって楽しい」の『肯定的評価』は、ほぼ横ばいの82%であった。
- 7-(2)「部活動は、子どもにとって達成感がある」の『肯定的評価』は、ほぼ横ばいの78%であった。

#### ②生徒の評価

- 7-(1)「部活動は、楽しい」の『肯定的評価』は5ポイント増加の88%と、高い水準であった。学年別の内訳は、1年生(90%)2年生(87%)3年生(88%)と、1年生が一番高い水準である。
- 7-(2)「部活動は、達成感がある」の『肯定的評価』はほぼ横ばいの86%と、高い水準であった。学年別の内訳は、1年生(84%)2年生(84%)3年生(89%)と、3年生が一番高い水準である。

#### ③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者に比べて生徒の『肯定的評価』の方がやや高いが、いずれもに高い水準である。

## (8) 情報提供について

### ①保護者の評価

- 8-(1)「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」の『肯定的評価』は3ポイント減少したが、90%と例年同様に高い水準である。
- 8-(2)「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」の『肯定的評価』はほぼ横ばいの83%。『否定的評価』は減少して、『わからない』が増えている。
- 8-(3)「「学び舎」の区立(幼稚園)小学校について情報が提供されている」の『肯定的評価』は、2ポイント増加の49%であった。『否定的評価』は12ポイントの減少の11%、『わからない』が10ポイント増加の40%であった。
- 8-(4)「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」の『肯定的評価』は6ポイント増加の93%と、高い水準であった。

### ②地域の評価

- 3-(1)「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる」の『肯定的評価』は、昨年度同様の96%と高い水準であり、『否定的評価』は0%であった。
- 3-(2)「学び舎」の活動について、情報が提供されている」の『肯定的評価』は、17ポイント減少の70%であった。『わからない』が11ポイント増加し15%であった。
- 3-(3)「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる」の『肯定的評価』は、昨年度同様の78%であるが、『否定的評価』は0%となった。
- 3-(4)「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」の『肯定的評価』は4ポイント増加の78%で、『否定的評価』は昨年度と同様に0%であった。

### ③保護者と地域の評価の比較

- 情報提供については、地域よりも保護者の方が『肯定的評価』が高い水準にある。

## (9) 学校運営について

### ①保護者の評価

- 9-(1)「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の『肯定的評価』は、5ポイント増加の77%であった。
- 9-(2)「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」の『肯定的評価』は、8ポイント増加の78%で、『わからない』が22%を占めている。
- 9-(3)今年度からの新規項目である「学校運営について」本校は、地域に情報を提供している」の『肯定的評価』は66%で、『わからない』が30%を占めている。

### ②地域の評価

- 4-(1)「学校の重点目標が明確である」の『肯定的評価』は、13ポイント減少の78%となった(『わからない』が13ポイント増加して22%となった)。

- 4-(2)「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」の『肯定的評価』は、昨年度同様の78%であった。

### ③保護者と地域の評価の比較

- 学校運営については、保護者も地域も『わからない』の割合がやや多い。

## (10) 家庭と学校の連携について

### ①保護者の評価

- 10-(1)「私は、学校公開にすすんで参加している」の『肯定的評価』は66%、『否定的評価』は31%と、いずれも昨年度とほぼ横ばいであった。
- 10-(2)「私は学校行事、PTAや地域主催の行事などに進んで協力している」の『肯定的評価』は、昨年度は15ポイント減少したが、今年度は10ポイント増加し、76%であった。
- 10-(3)「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している」の『肯定的評価』は、2ポイント減少の50%、『否定的評価』は3ポイント増加（悪化）の30%であった。

## (11) 地域との連携について

### ①保護者の評価

- 11-(1)「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている」の『肯定的評価』は、昨年度は8ポイント減少したが、今年度は6ポイント増加し、73%であった。『わからない』は依然として20%の水準にある。
- 11-(2)「本校は、地域の活動に協力的である」の『肯定的評価』は、昨年度は8ポイント減少したが、今年度は5ポイント増加し、79%であった。『わからない』は依然として19%の水準にある。
- 11-(3)「本校は、地域に情報を提供している」の『肯定的評価』は、昨年度は8ポイント減少したが、今年度は8ポイント増加し、69%であった。『わからない』は依然として29%の水準にある。

### ②地域の評価

- 5-(1)「地域の人や施設を教育活動に活かしている」の『肯定的評価』は、昨年度は14ポイント増加したが、今年度は13ポイント減少し、一昨年度とほぼ同じ78%であった。
- 5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」の『肯定的評価』は、13ポイント増加し56%となった。「否定的評価」は16ポイント減少して19%となった。
- 5-(3)「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」の『肯定的評価』は、18ポイント減少し52%となった。なお『わからない』は16ポイント増加となっている。

### ③保護者と地域の評価の比較

- 地域との連携については、保護者も地域も『わからない』の割合がやや多い。

## (12) 学校の安全性について

### ①保護者の評価

- 12-(1)「本校は、安全な学校づくりを進めている」の『肯定的評価』は3ポイントの減少したものの、83%と高い水準にある。
- 12-(2)「本校が避難訓練やセーフティ教室などで子どもに関する指導をしている」の『肯定的評価』は、一昨年度(95%) 昨年度(85%) 今年度(82%)と2年連続で減少傾向にある。
- 12-(3)「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の『肯定的評価』は、昨年度同様の72%である。

### ②地域の評価

- 6-(1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の『肯定的評価』は、4ポイント減少したものの93%と大変高い水準にある。
- 6-(2)「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」の『肯定的評価』は、6ポイント増加し89%と高い水準にある。

### ③保護者と地域の評価の比較

- 学校の安全性については、保護者も地域も『肯定的評価』の割合は高い水準にある。

## (13) 八幡中学校 独自項目

### ①保護者の評価

- 13-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協働して子どもを育てている」の『肯定的評価』は、4ポイント増加の80%であった。
- 13-(2)「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある集団として成長している」の、7ポイント増加の87%であった。
- 13-(3)「本校では授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の『肯定的評価』は、昨年度10ポイント減少したが、今年度は11ポイント増加し一昨年度とほぼ同じ78%であった。
- 13-(4)「通知表に評価されていることは納得できる」の『肯定的評価』は、ほぼ横ばいの78%であった。
- 13-(5)「八幡中学校は「確かな学力育成する学校」として、(中略)学習する機会を提供していることを一つでも知っている」の『肯定的評価』は3ポイント減少の92%であった。
- 13-(6)「私は保護者会にできるだけ参加している」の『肯定的評価』は、昨年度7ポイント減少し、本年度もさらに2ポイント減少(2年連続の減少)して78%となった。
- 13-(7)「学校と保護者の十分な対話の場がある」の『肯定的評価』は2ポイント減少し、83%であった。

### ②地域の評価

- 7-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている」の『肯定的評価』

は 100%であった。

### ③生徒の評価

- 8-(1)「授業において、先生は私の学習状況に合わせた学習課題を設定してくれるような工夫をしている」の『肯定的評価』は 6 ポイント減少の 78%であった。
- 8-(2)「授業において、先生は私が理解しやすいように、指導方法を工夫している」の『肯定的評価』は、ほぼ横ばいの 88%であった。
- 8-(3)「通知表の評価は納得できる」の『肯定的評価』は、一昨年度（83%）昨年度（85%）今年度（91%）と 2 年連続で増加傾向にある。
- 8-(4)「先生はだれに対しても平等に接してくれる」の『肯定的評価』は、一昨年度（71%）昨年度（81%）今年度（87%）と 2 年連続で増加傾向にある。
- 8-(5)「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある」の『肯定的評価』は、一昨年度（88%）昨年度（89%）今年度（91%）と微増ではあるが 2 年連続で増加傾向にある。
- 8-(6)「自分の意見が活かされていると感じている」の『肯定的評価』は、ほぼ横ばいの 76%であった。
- 8-(7)「学校の放課後補習教室や（中略）など学習する機会を設けられていることを 1 つでも知っている」の『肯定的評価』は、一昨年度（84%）昨年度（86%）今年度（88%）と微増ではあるが 2 年連続で増加傾向にある。
- 8-(8)「家庭内で進路や将来の仕事について話している」の『肯定的評価』は、一昨年度（76%）昨年度（78%）今年度（79%）と微増ではあるが 2 年連続で増加傾向にある。
- 8-(9)「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」の『肯定的評価』は 46%とまだ低水準ではあるが、17 ポイント増加（『否定的評価』も 17%減少）となった。
- 8-(10)「貸し出し用タブレットを自分の学習のために役立てている（ただし、学校で使っているソフトやアプリは除く）の『肯定的評価』は 10 ポイント増加の 76%となった。

## 4 昨年度の評価で改善・努力した点 (今年度、改善・努力してきた点)

### 【学校生活について】

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に伴う様々な制限が解除され、従来の教育活動を行うことができた。この期間の制限等は、新しい教育活動の在り方を再構築するきっかけにもなり、これまで以上に「生徒主体」を中心として考えてきた。その成果もあり、多くの生徒は学校の諸行事に前向きに取り組む姿勢を見せ、保護者・地域もそれを支えるという関係づくりが見られた1年間であったと捉えることができる。

学校関係者評価アンケートにおいて、ほぼすべての項目で肯定的評価が昨年度よりも向上している。また、経年比較を見ても、昨年度より好転した項目がいくつか挙げられる。「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は96%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価も96%であり、どちらも昨年より高い数値であった。

また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は89%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は94%と、生徒と同様に高い数値であった。この項目においても、昨年度より向上が見られる。先述の様々な制限の解除と、学校が提供する新しい試みを理解していただき、ご協力いただいていることは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取り組みは以下のとおりである。

#### ○生徒の安心・安全を第一に考えた学校運営。

- ・生徒が充実した学校生活を送ることができるような生活指導（SWPBS：学校規模ポジティブ行動支援）
- ・安全指導の見直しと充実（施設の定期的な点検と改修、不審者対応、最新の防災訓練）
- ・構成的グループエンカウンターを用いた非認知能力の向上（全校校外学習、縦割り班の活用、実施項目の冊子作成と計画的な取り組み・振り返り）

#### ○教育相談の充実

- ・週1回の校内特別支援委員会（不登校生徒対応と要支援生徒対応を隔週で実施）において、専門家をふまえた生徒理解のための研修
- ・別室登校生徒における居場所づくり「ステップルーム」の充実（4月週1日からスタート、年度末週4日へ拡大、不登校支援ガイドライン実践指定校としての取り組み）
- ・WEBQ-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認
- ・ふれあい面談の実施（面談の実施教員を生徒が指名、生徒がテーマを決めての話し合い）

#### ○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援
- ・ボランティア活動の充実（新規開拓、ボランティアビブスの作成）
- ・生徒会主催の諸行事の充実（ボランティア、ノーチャイムデー、エコキャップ回収箱作成）

#### ○学習指導の充実

- ・全教員が「個別最適な学び」「ユニバーサルデザイン（UD）を踏まえた、年間一回以上の研究授業の実施
- ・ICT機器の効果的な活用に向けた校内研修の充実

## 【学習指導について】

個に応じた学習の充実に向けて、学習の個別最適化やUDを意識した授業を進めてきた。

ICT を調べ学習のツールとしてだけでなく、生徒の考えや意見を集約させる活用に力を注いできた。ツールとしては様々なチャートを用いて、視覚的に理解が図れるように工夫をしてきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなど ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は 92%となり、昨年度の同様の項目と比べ、さらに3ポイント増加している。この項目は過去3年間で常に上昇を続けている。また、学習の個別最適化に関する質問でも、昨年と同程度の高い評価を得ることができた。さらに協働的な学びの充実を図ったことで、「自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の生徒の肯定的評価も、昨年と変わらない94%と高い結果となっている。授業は生徒自身の意見や考えを尊重しながら行っていく、という教師側の姿勢が反映された成果であると考え。保護者に向けた生徒の ICT 活用の肯定的評価も昨年度より 10 ポイント増加した 68%となり、紙媒体削減の課題や提出物の取り組みが目に見えて実感できているという結果につながっている。保護者に向けた質問項目で昨年度を下回った項目は「安全指導」「保護者会への参加」の2項目のみであり、いずれも2ポイントの減少にとどまっている。一方で「わからない」の回答が30%を超える項目が5項目ある。いずれも校内における教師と生徒の直接的な関わりの部分であり、少ない学校公開や家庭での親子の関わりでは評価が難しい項目であると考え。これらの項目においても、保護者会や学校・学年だより、HP での情報発信を重ねることで理解を得られるものであると考え。

今年度本校で改善・努力した具体的な取り組みは以下のとおりである。

### ○校内研修

- ・教員の授業力向上、ICT機器の活用（大きなテーマ2項目：個別最適な学び、UD）
- ・授業の母体となる学級組織の向上に関する取り組みの実施（構成的グループエンカウンター）
- ・全教員による生徒理解の向上（カウンセリングの手法を用いた生徒との関り）

### ○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、ティームティーチング（理科・英語）による授業

### ○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導
- ・オンラインでの授業参加（条件付き）、ステップルームでの学習の充実

### ○学び舎小学校との連携

#### ・学び舎研修会

共通テーマ「学習の個別最適化」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施  
（3年計画の2年目）

#### ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

## 【地域との連携】

地域との連携については全ての項目で改善が図られているが、まだ工夫や充実も必要なことが多いのが現状である。学校だよりやHPの更新を行うことで、学校が目指していること、取り組んでいるこ



と、地域との関りを紹介することで、情報提供、開かれた学校づくりを進めていく必要がある。それでも、地域の方々の支援をいただきながら、いくつかの地域行事を例年と同程度に実施することができた。そのため、地域との連携について（保護者）の項目では、「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は昨年度の67%から73%へ、「地域の活動等に協力的である。」の肯定的評価は昨年度の74%から79%となり、いずれも向上が見られた。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

- C組家庭科授業支援（青少年九品仏地区委員会による）
- 地域と協働した避難所運営の実施（九品仏まちづくりセンターを中心とした地域行事として）
- 「盆踊り大会」「ウォークラリー」「新春こどもまつり」の2大地域行事にボランティアとして生徒が参加
- 検定対策講習での受付作業や検定の試験監督業務（学校支援地域本部を中心として）
- 部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認告及び部長との懇談会
- OSTEP及び部活動における指導
- 第57回 立青式の開催（青少年九品仏地区委員会との共催）
- 特別支援学級C組校外学習への支援（青少年九品仏地区委員会による）
- 地域花ボランティア活動による正門周辺の植栽管理

## 5. 学校関係者評価委員会としての提言

### (1) 学習指導について

生徒については、いずれの項目も「肯定的評価」の比率が例年高く、学校が生徒のためにより良い学習指導を行っている姿が表れている。

保護者については、従来「わからない」が多く、今年度も依然として多いものの、その比率は減少してきている。保護者に理解してもらえるよう、日々努力をしている成果と言える。令和7年度から土曜日の授業がなくなるという面があるが、引き続き、保護者が授業公開などに参加できる工夫を施し、学習指導について保護者が知る機会を増やすことで、学校への信頼関係をより強固なものにしていきたい。

### (2) 生活指導について

どの質問項目も「肯定的評価」が高く、生徒の個性や特性を理解した上で、生徒に応じた指導を行うといった学校の方針・努力が評価されたものと考えられる。また、現在取り組んでいる「学校規模ポジティブ行動支援（SWPBS）」が、生徒の社会性や主体性に寄与しているものと思われる。引き続き、こうした取り組みの推進により、生徒がのびのびと学校生活をおくり、成長していくことを期待したい。

地域の「生徒の交通ルール順守」に関しての「肯定的評価」の減少（減少分のほとんどは「わからない」の増加だが、「否定的評価」も4ポイント増加）が気になるところではあるが、今年度は様子見として捉えたい。

### (3) 学校行事について

生徒、保護者、地域ともに、どの質問項目についても「肯定的評価」が高い。本校では、生徒の自主性を意識した学校行事運営が、生徒の成長につながっている。引き続き学校行事を、保護者や地域と一緒に生徒を見守り成長を促す機会として位置づけられることを期待する。

### (4) キャリア教育について

いずれの項目においても全般的に「肯定的評価」が高い本校において、本項目は比率が中程度である。独自項目の「自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」の「肯定的評価」は46%と低水準であるが17ポイントの増加となった。(5)における「丁寧な指導」や「相談しやすい」といったことのつながりがあると思われる。

また、生徒の「キャリア・パスポートに書いた目標について、考え行動している」に関しての「肯定的評価」は前述の通り67%だが、学年別では1年生が80%と高い。八中版キャリア・パスポートが導入されたこともあり、保護者への情報提供を通じて、家庭内でキャリアについて考える機会が増えていくことを期待する。

### (5) 教職員（先生）について

教職員は常に生徒との関係性の構築に努力をされており、その結果、「肯定的評価」は保護者において「ていねいな指導」で90%、「相談しやすい」で85%と、先生に対する信頼度は高い。また、生徒においても「ていねいな指導」は97%と大変高い数値であり、「相談しやすい」も昨年度の75%から10ポ

イント増加の85%になった。このことから教職員が多忙を極める中、生徒一人ひとりに対して丁寧に話を聞くなどの対応により生徒の信頼を獲得している状況がうかがわれる。また今年度より実施した「ふれあい面談」も、普段接点の少ない先生との対話を通じて、生徒は刺激を得られたのではないかと推察する。引き続き、生徒との対話を通じて、生徒の機微を見逃さないよう、親身な対応をお願いしたい。

#### (6) 全般について

学校生活が楽しく達成感があると感じている割合は、保護者も生徒も毎年非常に高く、充実した学校生活を送っていることがうかがえる。

保護者の「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」の「肯定的評価」は73%から20ポイント増加の93%となり、本校の方針が保護者に理解を得たことがうかがわれる。引き続き生徒の主体性を育むことで、達成感や成長につながることを期待したい。

#### (7) 部活動について

今年度は水曜日の活動をなくしたものの、「たのしさ」「達成感」共に、保護者、生徒ともほぼ横ばいの80%前後と、コロナ禍以前の充実した部活動の水準に近づいてきている。部活動については昨今の様々な事情があることから、できる範囲の中で実施して、生徒たちの主体性や満足度を高めてもらいたい。

#### (8) 情報提供について

保護者も地域も、「肯定的評価」が高い項目が多い。保護者は「保護者会」や「すぐる」など、地域は「ホームページ」や「回覧板」など、情報を得る媒体は多くあり、充実していると感じることがうかがわれる。引き続き、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでもらいたい。なお、情報過多により本当に重要な情報が埋もれることもありうるので、情報の精査や見せ方などの工夫も必要な時期になっているとも考えられる。

#### (9) 学校運営について

「保護者に指導の重点を伝えている」の「肯定的評価」が一昨年度から昨年度にかけて7ポイント、昨年度から本年度にかけて5ポイント増加して77%となった。引き続き保護者会などにおいて、要点を絞ってわかりやすく伝えてもらいたい。

#### (10) 家庭と学校の連携について

保護者に対する「肯定的評価」が昨年度15ポイント減少した「すすんで協力している」は、今年度は10ポイント増加したが、いずれの項目も『否定的評価』が20~30%と高い水準である。昨今の環境からなかなか難しい問題ではあると思われるので、まずはできる範囲のなかで小さなことから進めてもらいたい。

#### (11) 地域との連携について

保護者については、「わからない」が20~30%程度あるものの、「否定的評価」はほとんどない。また地域において、独自項目「地域と協力して子どもを育てている」の「肯定的評価」は100%である。地

域との連携の行事が徐々に再開している。できることから進めてもらいたい。

(12) 学校の安全性について

保護者も地域も「肯定的評価」は比較的高いが、保護者の「避難訓練やセーフティ教室などで子どもに関する指導をしている」は2年連続で減少傾向にあるのが気になる点である。今後は改築の効果が出てくる一方で、外壁工事の影響もあることなどから、引き続き、防犯・防災に対するきめ細やかな対策を継続してほしい。

以上